


一般質問通告書

⑦

多可町議会議員 河崎 一 様

多可町議会議員 日原 茂樹 

平成27年 3月11日	
受領	午前 8時30分 午後

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. のぎくバスの新たな取り組み	町長

コミュニティバス、のぎくバスは旧中町で平成15年11月に運行を開始し、3町合併による多可町誕生後は、平成18年11月に、加美区、八千代区のルートが設定されて6コースにて運行されるようになりました。その後、改変、集約され現在は4コースなっています。岩座神～松井診療所～多可町役場～多可町図書館の①コース、八千代プラザ～日赤病院～那珂ふれあい館の②コース、長野～日赤病院の③コース、なごみの里山都～八千代診療所～日赤病院～那珂ふれあい館の④コース、この4ルートです。

コミュニティバスは、民間バス事業者が運行するバス路線を補完し、公共交通の空白・不便地域のニーズに合った交通手段を確保するために運行を行うものです。福祉施策として高齢者や交通弱者対策として多可町の公共交通の基軸となる路線バスやコミュニティバスを維持存続し、多可町の賑わいと活気のある街づくりのため、町内の公共交通ネットワークの充実・発展は不可欠なものと思われます。

わが国の高齢化は深刻なペースで進んでいます。内閣府の平成26年版高齢社会白書では2013年度での兵庫県の高齢化率は25.3%、2040年では36.4%となっており、多可町でも2040年に40.4%が65歳以上になるといわれていて、今後ますます交通弱者が増えていきます。

高齢者の生活拠点での暮らしと移動の自由の保障や、障がい者や交通弱者に配慮ある交通サービスがますます求められます。

それを踏まえた上でお尋ねしたいのが、のぎくバスの運行形態は住民の本当の足となっているのかということです。高校生の通学時間帯を除けば、②コースの八千代プラザ～日赤病院～那珂ふれあい館以外は乗客が少なく、特に③コースの長野～日赤病院は1便あたりの平均は約1人と厳しいものがあります。これはニーズがないのではなく時間帯、行き先にも工夫が必要なのではないでしょうか。朝夕の時間帯だけでも黒田庄町から多可高校へ通学する高校生や安田地区などの沿線の多可高生をターゲットに考えてもいいのではないのでしょうか。

住民の福祉、医療、教育などの諸政策の機能を効果的に発揮するための土台としてコミュニティバスは大変重要な役割を担っていると考えられます。多可町は財政状況が厳しい中でも交通機関への補助制度や、すべての住民への交通権の保障に積極的に取り組んでいますが、運行コースの問題だけでなく、今一度デマンドバスの運行なども含めた『のぎくバス』の新たな取り組みを検討されていますか。

町長のご所見をお伺いします。

2. 子どもの貧困対策

教育長

2013年6月に成立した子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づき、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指して、子どもの貧困対策を総合的に推進するための大綱が2014年8月29日に閣議決定されました。

子どもは国の宝であり、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されず、貧困が世代を超えて連鎖することがないように、必要な環境整備を、国を挙げて取り組んでいくとしております。また、この大綱に基づいて都道府県など地方公共団体は、対策を検討する場の設置や対策計画の策定が求められております。

子どもの貧困が深刻化していることは、さまざまなデータから明らかになっています。

平成26年版 内閣府子ども・若者白書によると所得が平均の50%を下回る家庭で暮らす18歳未満の子どもの割合「子どもの貧困率」は2012年時点で16.3%、実に6人に1人と驚くべき数字となっています。また、給食費や学用品代を補助する就学援助制度で、対象となった世帯の小中学生の割合は年々増加して2012年度は15.64%と、これも過去最悪となっています。

2012年の貧困線の額は122万円、また、子どもがいる現役世帯のうち大人が1人の貧困率は54.6パーセントと、ひとり親家庭の半分以上が貧困に苦しんでいるという数字があります。

多可町では、学用品や給食などに係る費用の一部を援助する就学援助制度や高校、特別支援学校（高等部）や高等専門学校などに通う子どものためのハートフル学業支援金給付などがありますが、この支援制度で充分でしょうか。

子どもの貧困についての現状認識と、多可町として子どもの貧困対策を今後どのように進めていくのか、教育長のご所見をお伺いします。